



八王子市立四谷中学校

学校だより

令和7年12月15日



<http://hachioji-school.ed.jp/yotyj/>

「天網恢々疎（てんもうかいかいそ）にして漏らさず」

校長 長田 克

時がたつのは早いもので、今年も残すところあと半月になってしまいました。2学期は、3年生の修学旅行から行事は始まり、1年生の移動教室、2年生の職場体験、合唱コンクール、50周年の記念式典とにかく行事が多く行われた学期でした。行事や普段の教育活動を通じて、生徒全員に活躍する場はあったと思います。それぞれの行事で体験したこと、経験したこと、その成果は、どうでしょうか？行事が終了すると、よく学校生活に活かしていきますという言葉を聞きますが、実際のところできているでしょうか？私から見ている限り全校生徒全員が出来ているとは思えません。本当に、言葉だけで終わらせてしまうことは残念なことでもあり、もったいないことでもあると思います。体験したこと、経験したことを少しでも活かすことが出来れば、自分自身の将来につながります。もう一度、自分自身を見つめ直してください。

さて、中国の思想家の老子という人が言った古いことわざで「天網恢々疎にして漏らさず」という話を知っていますか。

難しい漢字ですが「天網」は 天に張り巡らせた法の網。

「恢々」は 広大である。

「疎」は 粗い。

を意味しています。

「天網恢々疎にして漏らさず」を訳せば、「天に張り巡らされた法の網は、広大で一見目が粗いようであるが、悪人を網の目から漏らすことない。」すなわち「悪事を行えば必ず捕られ、天罰をこうむる」と言う意味になります。このことわざは、簡単に言えば、「悪いことをするなよ、天は全てお見通しだよ」ということです。「少しくらいは悪いことをしてもいいだろう。どうせ分かりっこない。」と思ってもいつかはばれる。そうなってから初めて「何でやってしまったんだろう」と思っても、あのまつりで後悔ばかりが残ってしまった、と言う経験をした人もいると思います。「正直に生きて頑張っている大勢の人が損な役割を受け、少数のするい人が樂をする」そんな嫌な世の中にしないためにも、みんなでルールやマナーを守っていきましょう。学校内での悪ふざけやいじめ、メールやSNSでの誹謗中傷など、「ちょっとくらい」とか「ばれなきゃいいや」という心の隙間から生まれる悪い心を自分で規制できるように。また、やってしまいそうな人がいたら「そんなことやめた方がいいよ」と声

をかけてあげることも大切なことではないでしょうか。その声をかけられる人が眞の友達とも思います。学校が楽しい場所、みんなが過ごしやすい場所にするには、やはり一人ひとりの努力と全員の協力が必要だと思います。「天網恢々疎にして漏らさず」このことわざを心に留めて生活してください。

グローバル人材育成

これから時代を生きる子供たちには、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と協力・協働しながら課題を解決する力が求められます。また、多くの外国の人々と交流する機会が増えしていく中、自らすすんで積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や豊かな国際感覚を醸成する必要があります。



2040年には、東京に暮らす約10人に1人が外国人となることが見込まれ、また国籍も多様化しています。さらに昨今、価値観の多様化、社会構造の複雑化等を背景に、新たな人権課題も顕在化しています。

多様な人々が共に暮らす社会においては、様々な背景や価値観をもつ人が、違いを認め合いながら、支え合うこととなります。そのような社会を生きる子供たちには、自分をありのままに受け止めるとともに、他者を大切にし、互いを理解、尊重する気持ちを育てることが重要です。

【東京グローバル人材育成指針 令和4年3月 東京都教育委員会】一部抜粋

今年度は、11月28日（金）にマレーシア大使館の方、12月12日（金）にオーストラリア、オーストリアの留学生2名をお招きして国際交流会を行いました。



マレーシア大使館の方のお話を聞いて「マレーシアが多民族国家であり、尊敬・寛容・調和を大切にしている国である」ということが印象に残った。」や「自然の雄大さに驚かされた。」という感想がありました。これは毎年感じることですが、生徒はその国についてさらに知りたい、調べてみたい、行ってみたいと思う生徒がたくさんいることがわかります。



留学生との交流は、人と人の間で進めるものであり、人や文化の理解があつてはじめて、経済や科学などの専門的な知識、技能を生かすことができます。今年度も自国の歴史や文化、言語、環境などについて話していただきました。四谷中学校ではこれからもこのように外国人との直接交流を大切にしていきます。